



ウプサラ気候プロトコル 気候中立性への包括的な 共同設計アプローチ

スウェーデン・ウプサラ



要約

ウプサラでは、地方自治体が官民の組織と連携して、気候目標とそれを達成するための方法を一緒にデザインしている。気候プロトコルは、包括的な共同設計モデルであり、具体的な気候戦略につながっている。

パートナーシップの発展

気候プロトコルとは、気候変動に取り組むために地方自治体と協力して活動する団体のことである。2010年に発足し、16の団体が署名し、2020年までに排出量を30%削減するという市の目標に貢献している。10年間の活動を経て、メンバーと目標が調整された。現在では40の団体が加盟しており、2030年までに化石燃料を使用しない再生可能なウプサラを、2050年までに気候変動に積極的なウプサラを実現するために、市の野心は更新されている。

最初のプログラム期間（2010年～2012年）では、パートナーは排出量を4%削減し、最近完了した期間（2015年～2018年）では、2年間で排出量を10%削減し、エネルギー使用量を3.5%削減することを達成した。このパートナーシップのメンバーには民間企業、大学、公的機関、市民団体などが含まれている。現在進行中の第4次作業期間は2018年～2021年である。

仕組み

メンバーの執行役員と気候コーディネーターは、年に2回、円卓会議を開き、個人やグループのコミットメントや戦略的發展に関する重要な意思決定を行っている。気候コーディネーターは年4回、知識の共有、調整、発展のために会合を開いている。市を常任委員長とする調整委員会と運営チームがある。

気候プロトコルを構成する組織は、それぞれの分野や関心に応じて、テーマ別の作業部会に参加している。現在、建材、エネルギー、貨物輸送、モビリティ、都市開発、プラスチック、食品などの分野で活動しているグループがある。

ウプサラ



人口：
168,096

面積：
48.77 km²

首長誓約署名年：
2018

CO₂排出削減目標：
1990年と比較し
2070年までに
110%減
気候ニュートラル
2030年
気候ポジティブ
2050年

ウプサラ市の協力を得て、各ワーキンググループのメンバーは年に4~5回会合を開いている。

メンバーのグループは共同のテーマ別プロジェクトで協力している。例えば、「最先端のモビリティマネジメント」プロジェクトでは、メンバーの従業員に自家用車で移動よりも公共交通機関やアクティブな交通機関を選択するよう説得した。これにより、CO₂換算で350トンの排出量を削減することに成功した。

「気候効率の良いプラスチック調達」プロジェクトでは、商品やサービスのサプライヤーの調達を通じてプラスチックの使用量を減らし、リサイクル率を高めることに焦点を当てた。その結果として、プラスチック廃棄物を削減するためのガイダンスを企業に提供するための無料のオンラインツールやその他の資料が作成された。

プロジェクト「美味しい気候」では、消費者が食品の購入について十分な情報に基づいた意思決定ができるように、メニューに気候表示をすることで、食品生産における排出量に焦点を当てた。

気候プロトコルの大きな取り組みとして、プログラム期間よりも長い5年ごとに自治体と気候行動ロードマップを共同で作成することが挙げられる。現在の第3次ロードマップでは、裕福な都市、企業、市民のために、科学的根拠に基づいた目標と炭素予算に沿った緩和とシステムシフトを加速させるための戦略とマルチステークホルダーアクションに焦点を当てている。年間10~14%の削減を目指している。

課題と成功要因

気候パートナーシップは、気候変動への大きな志だけではなく、メンバー組織がインフォーマルなネットワークを構築するのを支援している。このような多様な組織が一丸となって活動することには困難があるが、気候変動という多面的な課題に対して、これにより全体的なアプローチを確保することが可能である。

また、メンバーの人事異動により共同作業に支障をきたすこともある。さらに、これらの組織の多くが気候変動との連携に割くことができる時間が限られているという問題もある。

プロトコルの成功の重要な要因は、異なる能力や関心を持つ組織が、自分たちに関連性のある方法で気候変動に取り組むことを可能にするテーマ別の構造を含む。第2期に3,000ユーロの会費（非営利団体は免除）を導入したことは、パートナーシップの真剣さを示している。

教訓

この10年間のパートナーシップを通じて学んだ教訓としては、地方自治体が多様なステークホルダーの関与を引き付ける能力があること、イニシアティブを立ち上げたにもかかわらず、地方自治体は他のメンバーと同じコミットメントと役割を持って共創に取り組まなければならないこと、パートナーシップを再構築し新しい組織のスペースを確保するためにいくつかの古い組織が去っていくための3年サイクルの有用性、協力を継続するための継続的な奨励と育成の必要性などが挙げられる。

役立つリンク

- ▶ ウプサラ気候プロトコルウェブサイト: <https://bit.ly/2X27cRo>
- ▶ WWF ケーススタディ(2013): <https://bit.ly/3aGfz9q>

重要データ

メンバー内での総従業員数:

およそ **38,000**名

ウプサラにおけるオフィスの占める割合:

およそ **35%**

地理面積全体のうちメンバーのエネルギー消費量の占める割合:

30%

プロジェクトの資金調達

- ▶ **資金源:**
会費と市からの同額の資金提供
×3年
- ▶ **プロジェクト総予算**
一年当たり192,000ユーロ



問合せ

プロジェクトの詳細の問合せ先: Bjorn Sigurdson,
Climate strategist, Uppsala bjorn.sigurdson@ uppsala.se